

平成 31 年度 重要課題	解決に向けた取組
<p>1 学校、地域の実情に応じた小中一貫教育の推進</p>	<p>○9年間、各段階に応じた成長を実感させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月（計画的）の児童生徒会活動、行事等の縦割り班活動の取組を行う。 ○キャリア教育の効果的な展開に努める。これまでの特別活動の研究の成果を生かして、教科学習の研究を推進していく。 ・キャリア教育の視点で、自己有用感を意識した特別活動等による取組を行う。
<p>2 開かれた学校づくり、信頼される学校づくりの推進</p>	<p>○積極的な情報発信及び登校指導など、日々の地道な活動に力を入れ、保護者や地域の信頼を得られるようにする。</p> <p>また、ホームページを更新し、日常の学校の姿、学校運営の進捗状況を提供する。</p> <p>○育友会、学校運営協議会、各種団体等との情報や課題の共有に努め、連携・協力体制を確立する。</p> <p>○地域行事への児童生徒の積極的な参加を促す。</p>
<p>3 確かな学力の定着・向上</p>	<p>○新大分スタンダードを意識した授業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常授業で、板書に「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を位置付ける。 ・単元に1回以上、ペア・グループ学習等の「対話的で深い学び」を位置付けた授業を行う。 ○「チャレンジ学習」等の実施により、学習の定着を図る。 ・小テストを単元に1回以上設定し、やり直しをていねいに行う。 ○学習規律の徹底（学習5原則）や望ましい学習態度、学習習慣の育成に努める。
<p>4 豊かな心をはぐくむ教育活動の充実</p>	<p>○考え・議論する「特別の教科道徳」の時間の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大分市道徳指導ハンドブック」等を活用し、授業改善に努める。 ○あいさつの徹底、規範意識を育成する。 ・毎日、帰りの会で挨拶について振り返りを行う。 ○「居場所」と「絆」づくりの取組を行う。 ・週1回以上、生徒指導の3機能を意識した授業を行う。
<p>5 体力の向上と心身の健康の保持増進</p>	<p>○一校一実践による体力アップを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業で、全部位を意識した「賀来っ子体操」（ストレッチ）を行う。 ・月1回以上、「スポーツチャレンジ（縄跳び等）」を実施する。

<p>6 一人一人の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の推進</p> <p>7 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実</p> <p>8 豊かな人間性や社会性をはぐくむ生徒指導の充実</p> <p>9 人権尊重の精神をはぐくむ教育活動の充実</p>	<p>○生活習慣の改善と意識の高揚を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日、早寝、早起き、朝食のことを話題にする。 ・月1回以上、学校「保健（養教）、食育（学栄）」・学年通信等を活用して、保護者の啓発を行う。 <p>○キャリア教育の視点に立った、9年間を見通した教育活動を行う。基礎的・汎用的能力育成の観点で指導にあたる。</p> <p>○小中一貫教育校の特色を生かし、系統的な職業・職場体験学習等を充実させ、働くことの意義や尊さを実感させる。</p> <p>○一人一人の児童生徒の実態を的確に把握し、個に応じた指導の計画や、目標を達成するための内容、取組等に係る適切な教育支援策を講じて、障がいの状態に応じたきめ細かな指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級に在籍する児童生徒に対する、支援を必要とする子どものニーズを踏まえた効果的な取組・実践のため「個別の指導計画」の作成に努める。 <p>○児童養護施設、児童相談所、子ども家庭支援センター、SC、SSWなどと連携を図り、適宜ケース会議等を開催する。</p> <p>○あいさつの徹底、規範意識を育成する。</p> <p>○「居場所」と「絆」づくりの取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1回以上、生徒指導の3機能を意識した授業を行う。 <p>○QU検査等を活かした、児童生徒会活動等や学級指導による望ましい人間関係を構築する。</p> <p>○SCやSSWと緊密に連携し、子ども・家庭への早期の支援・対応及び解決支援に努める。</p> <p>○いじめ・不登校・問題行動等の未然防止、早期発見・迅速対応等、組織的な生徒指導を推進する。</p> <p>○児童生徒に関する情報交換等による共通理解のもと、児童生徒の自尊感情の高揚を図る教育活動を実践する。</p> <p>○部落差別の解消をめざした教職員研修や児童生徒の学習を通して、教職員・児童生徒の人権意識を高める。</p>
平成31年度 学校独自の課題	解決に向けた取組
<p>1 目標達成への学校運営組織「プロジェクトチーム」の実動</p> <p>2 「地域とともにある学校」への転換促進</p>	<p>○「賀来小中学校マネジメントツール」により、各プロジェクトリーダーを中心にした組織を構築し、取組の実施、検証、改善のサイクルを確立し、児童生徒の「できた・わかった」のもと、成果を結果に繋げる。</p> <p>○学校経営計画について、協議会委員、PTA 役員等への協議の機会を設け、学校の取組・家庭や地域での取組内容については綿密に吟味して、取組の実践及び達成状況を発信し、家庭・地域の主体性の喚起に努める。</p>